

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100278		
法人名	株式会社 北星		
事業所名	グループホーム なの花すながわ 2号館		
所在地	北海道砂川市空知太西1条3丁目3番22号		
自己評価作成日	平成23年1月18日、26日	評価結果市町村受理日	平成23年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに合わせた対応を行い、その人が持っている力を最大限に発揮できるよう、関わっている。 生活の場として家庭的な雰囲気の中でゆったり暮らして頂いている。 広い中庭や畑を活用し、外での活動を増やす工夫をしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177100278&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年2月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型を意識した理念を作り、いつでも確認出来るよう名札の裏や玄関に掲示している。また、申し送りの際には必ず声に出し読み上げ、理念にそったケアが出来るよう日々努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会へ参加し、清掃活動や敬老会等へ参加している。また、なの花新聞の配布や、施設内行事へ町内の方を招く等、関係性が築けるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症地域社会資源マップに登録している。認知症の人への理解を深めて頂けるよう、町内の行事に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し事業所の利用状況や取り組み等の報告を随時行い関係者との連携や協力体制に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や地域包括支援センター等と連絡を取り合いホームの現状や取り組みを伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などへ参加し、学んだ事を職員会議等を活用し全体で理解、共有できるよう取り組んでいる。また、玄関、居室のカギは日中は施錠せず、自由に入りが出来るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等への参加や職員会議を通じて、虐待防止に関しての定義や知識、意識の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等を通じて学ぶ機会はあるが、後見人制度を必要としている方が居ない為活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には事前に聞き取り調査や施設見学を行い、面談を重ね不安や疑問点の解決に努めている。また、解約時にも十分な話し合いや、説明を行うと共に、関係機関や関係者の連携のもと理解、納得が得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見要望等は、日常の会話や面会時等から聞き取り、申し送りや職員会議等で話し合い対応反映させている。また、苦情相談窓口の案内や、外部への相談等が出来るようポスター等の掲示も行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別に職員の意見、提案を聞くように努め、運営に反映させている。また、不満や苦情に関しては本社に意見苦情相談窓口が設置されており職員の不満等に対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事への取り組みや意欲等を管理者が施設長に報告し努力や実績、勤務状況等を把握している。また、勤務希望等、出来る限り考慮し働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の案内を回覧し、参加したい職員や、資格、経験に応じて参加出来るよう勤務表の調整等を行っている。外部の方を招いての勉強会や、日常の勤務を通じて指導やアドバイスがあり職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加し同業者と情報交換を行ったり、他事業所の行事等に招待され参加する等交流が持てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族等から相談を受けた際には本人及び家族がホームの見学や面談を行い、不安や希望を聞き出すように努めている。また利用に関して不安がある場合には時間をかけて面談を行い体験入所等柔軟な対応をし安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた際には家族の方にも見学にきていただき、不安や希望等を聞き出し、安心、納得していただけるよう努めている。また、利用に至るまでの間にも連絡を取り合い情報の交換等に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの相談を聞き場合によっては市町村や他施設の紹介等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅で過ごされている時と同じように共に掃除や調理等行って頂いている。また、日常的な会話の中で悩み事などを聞いたり、共有、共感出来る関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に家族の要望を聞いたり、また、利用者の日常生活の様子を報告したりと共に情報を共有し支え合う関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場所との関係が継続出来るよう家族、管理者の対応で出掛けている。また、電話や手紙を使い関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握、考慮し孤立せず支え合えるよう支援している。また、孤立しそうな利用者には職員が間に入り良い関係が築けるよう、レクリエーションやゲーム等を行い支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どが事業所から入院となりサービス終了となってしまう。入院先の病院には今迄の経過や日常生活の様子を伝え情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情等から思いを把握し職員全体で思いを共有しそれを基に援助計画やケアに活かしている。また、実現が不可能な希望等には代替案をたてて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族、利用していた事業所等から情報収集を行い生活歴等の把握に努めている。入居後も会話等から情報収集を行い個人ファイルを作成し職員全体で情報が共有出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の観察やコミュニケーションを通じて現状、変化等の把握に努めている。把握した情報は申し送りや記録用紙等を活用し職員全体で把握、共有出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は家族、本人の意見や思い等を基に職員で話し合い作成している。また、身体、精神的変化等が見られた場合には現状に即せるよう計画の見直し等も行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等は記録用紙を活用し、申し送りやカンファレンスにて情報の共有を行い介護計画の作成や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師や歯科医の定期的な往診や、美容師の定期訪問により要望に応じている。また、定期受診する場合も家族対応が原則だが状況に応じて管理者や看護師が同行する等柔軟な対応で支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年二回の避難訓練を行い消防署や町内会との連携を図っている。また、敬老会等の参加やボランティアの方による催し物等協力を得て支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の方の希望に応じたかかりつけ医、病院の受診を家族の協力の下行っている。また、医師の協力も得て往診等の対応も行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が一名勤務しており、利用者の健康管理等を行っている。また、医療面での相談やアドバイス等日常のケアに活かせる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員がお見舞いに行く等、入居者が安心出来るよう努めている。また、管理者、看護師が医療機関との情報の交換や連絡を密にする等早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想された段階でかかりつけ医や医療機関、家族と連携をとり本人や家族の思いに添えるよう支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応等のマニュアル作成や緊急時の連絡体制など備えているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行っている。避難訓練時、町内の方の協力を得て訓練に参加して頂いているが夜間を想定しての訓練や地震、水害時の訓練は行っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員尊厳を意識しながら対応している。排泄介助の時等声掛けを工夫しプライバシーが損なわれないようその方に合わせた対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い等を表せる利用者が多いのでその都度聞き自己決定して頂いている。また自己決定が難しい方にはこちらから聞き取りを行い選択肢を提示する等し本人の希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を尊重し自由に過ごして頂いている。職員の勤務体制等により希望に沿えない場合もあるが利用者本位で生活が送れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力のもと馴染みの美容室へ出掛けたり化粧品等の購入等身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。また行事がある時等はマニキュアをつけ楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力や得意な事を把握し食事の準備や片付け等を一緒に行っている。また嫌いな物等は別の物に変える等献立を工夫しながら食事を楽しめるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は観察や記録等から把握し一人ひとりに合った量を提供している。また水分を嫌がる方には数回に分けてこまめに摂取してもらっている。体調不良時等は摂取しやすい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けや介助等を行い一人ひとりに合わせた対応で口腔内の清潔保持に努めている。また週1回義歯洗浄剤を使用し汚れや臭いが生じないよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録を行い排泄パターンの把握に努めている。また誘導が必要な方には声掛け等を行いパット類の使用や失禁を出来るだけ少なくするように努めている。また夜間のポータブルの使用等その方に合わせた対応も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のプルーン、牛乳摂取や食事の際も食物繊維が多い食べ物や乳製品、水分摂取量等に気を付け支援している。また便秘時は看護師との連携のもと下剤の調整等を行い対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の勤務の都合上、時間帯は決まっているが時間外でも入浴希望があれば柔軟に対応し入浴出来るようになっている。異性職員を嫌がる方には同性職員との交代や入浴剤の使用等心地良い入浴が出来るように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や体調に合わせて本人が休息したい時は好きな時間に休息して頂いている。また室温管理等を行い気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は職員会議で話合わせ統一した方法で行われている。薬の変更等は看護師からの申し送りや記録にて把握出来るようになっており副作用や用法用量等も看護師から説明を受けた上で支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合わせて役割を持って生活して頂いている。飲酒に関しては既往歴等を考慮し看護師と相談の上提供している。また、カラオケ、百人一首等提供し気晴らしや楽しみの支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の対応にてドライブや買い物、初詣に出かける等外出支援を行っている。また家族の協力のもと外出や外泊等も行えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の力に応じて管理出来る方はお金を所持し支払いや管理を行っている。また、出来ない方に関しても手助けのもと所持し、買い物等へ出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけた取り次ぎ、ゆっくりと安心して話ができるよう居室での対応等配慮に努めている。また手紙や年賀状のやりとり等の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはイベントや日常の写真、クラフト作品等を飾り季節感を出せるよう努めている。また、不快な音や光、温度や換気にも配慮し居心地の良い空間になるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭やリビングには一人掛け用の椅子が置いてあり思い思いに過ごせるよう工夫している。また、椅子を移動させ並んで座ったり、ソファーを利用したりと気の合う利用者同士で自由に過ごせている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご家族の写真や好きな本、趣味の道具や家具等馴染みの物を持ってきて頂き居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置や杖の使用等一人ひとりに合わせた対応で自立した生活が送れるよう努めている。また、居室の表札、カレンダーへの記入等解る力を最大限活用し混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		